

金融市場NOW

家計金融資産が最高

2004年度以降で過去最高

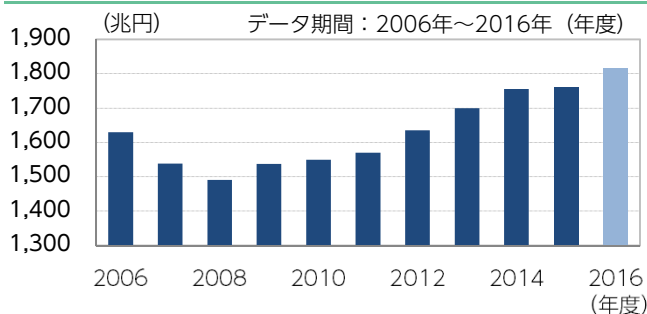
- ▶ 2016年度末の家計の金融資産残高は、前年度末比2.7%増の1,809兆円となり過去最高となった。
- ▶ 日本は家計金融資産の過半が現金・預金であるのに対し、米国は株式・出資金や投資信託が過半。
- ▶ 欧米諸国に比べて資産運用のメリットについて十分に理解されていない事も要因の1つか。

日本銀行が6月27日に発表した資金循環統計（速報）によると、2016年度末の家計の金融資産残高は1年前に比べ2.7%増の1,809兆円となり、年度末としては比較可能な2004年度以降で最高となりました（図表1）。株価の上昇により、時価評価した株式や投資信託が増加しました。

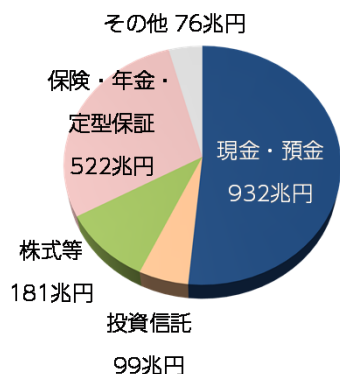
家計の金融資産残高の内訳をみると、『現金・預金』は同2.3%増の932兆円で伸び率は過去最大、『保険・年金・定型保証』は同1.0%増の522兆円、『株式等』は同7.9%増の181兆円、『投資信託』は同7.2%増の99兆円となりました（図表3）。『現金・預金』のなかで普通預金にあたる流動性預金の伸びは7.2%と突出しており、残高が前年比で増加するのは41四半期連続です。なお、米国の家計金融資産も年ベースで増加基調を続けています（図表2）。

日米の家計金融資産の構成比を比較してみると、従来どおり日本は過半を現金・預金で占めている一方で、米国は『株式・出資金』や『投資信託』、『債券』を大量に保有しています（図表4）。超低金利にも関わらず、金融資産の半分が現金・預金で運用されているというのは、日本は欧米諸国に比べて資産運用のメリットについて十分に理解されていない事が大きいのかもかもしれません。近年、政府は、構造改革の一環で「貯蓄から投資へ」の促進を目的とした金融教育に力を入れているようです。

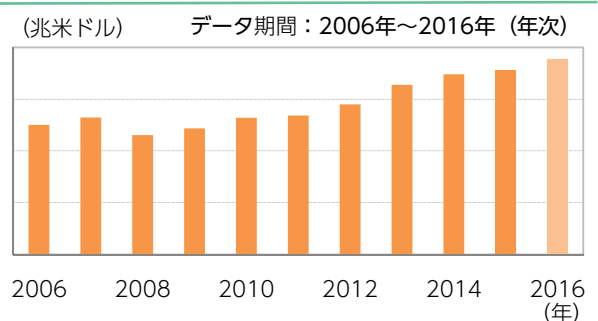
図表1：日本の家計金融資産の推移



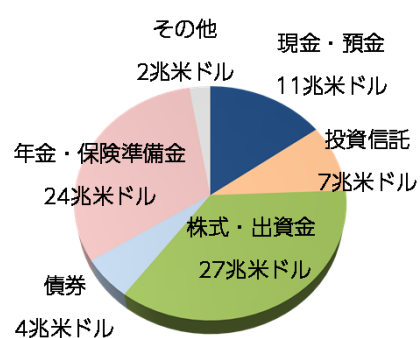
図表3：日本の家計金融資産の構成（2016年度末）



図表2：米国の家計金融資産の推移



図表4：米国の家計金融資産の構成（2016年末）



出所：図表1、図表3は日本銀行のデータ、図表2、図表4はF R Bのデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会